

六篠会報

No.14 発行／神戸市灘区六甲台町1 神戸大学農学部内 りく そう かい 六篠会 (神戸大学農学部同窓会)
連絡用FAX: 078-881-2752 E-mail: rikusou@ans.kobe-u.ac.jp



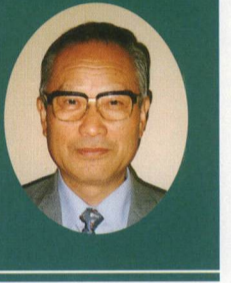
農学部玄関前

C · O · N · T · E · N · T · S

「農学部創立50周年記念事業を成功裡に終えて」新家 龍… 2	③関東支部……………8
「神戸大学農学部創立50周年事業をおえて」加藤 征史郎…2	④九州支部……………8
「神戸大学農学部創立50周年記念行事を終えて」王子善清 …3	⑤延喜会……………8
「農学部創立50周年記念式典」土田 広信……………4	⑥学友会だより……………8
「農学部創立50周年記念講義」……………4	⑦KUCだより……………9
「農学部創立50周年記念講演会」団野 源一……………4	10年度同窓会報告……………9
「発祥の地(篠山)学術講演会」山本 博昭……………5	神戸大学100年史……………10
「記念植樹」津川 兵衛……………5	六篠会への連絡……………10
「交流と親睦の祝賀会を終えて」中村 直彦……………6	10年度決算報告……………10
50周年会計報告……………7	11年度事業計画・予算……………10
支部等の便り ①KOBE六篠会……………7	同窓会名簿住所等変更者……………11
②県六篠会……………7	寄付者名簿……………12

農学部創立50周年記念 事業を成功裡に終えて

六條会会長 新家 龍



はじめに

六條会の皆様には益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。さて、昨年10月の創立記念講義から始まりました農学部創立50周年記念事業は、農学部との共催で関係者各位並びに六條会会員の絶大なご協力により、計画通りに遂行され、本年6月発祥地(篠山)の学術講演会をもつてすべて成功裡に終了することが出来ました。又、篠山の学術講演会では、現在進行中の「篠山城大書院復元事業」に対する寄付金50万円の贈呈式も行い、これまで篠山の皆様へ頂いたご厚情に対して感謝の意を表することが出来ました。

さらに、募金総額から、最初予定していた金額よりは少なくなりましたが、六條会学術振興基金へ240万円余を繰り入れ、将来への活動基金とすることも出来ました。これ偏に、ご協力頂きました皆様方の並々ならぬご尽力の賜であり、心から感謝致しますと共に厚く御礼申し上げます。記念事業実行委員会からの経過並びに決算報告等が本会報に詳細に掲載されており、二読いただければ幸いです。今回の募金にご賛同頂きました会員各位には、記念品をお渡ししましたが、又御礼状と報告書を送付するのが本来ですが、本会報の紙面を借りてご芳名を掲載して感謝し、簡略化させて頂きましたので、ご了承下さい。

創立50周年記念行事の印象

まずようお願い申し上げます。創立50周年記念行事のハイライトである記念祝賀会は、5月15日の午後4時から6時すぎまで、木漏れ日のさわやかな農学部研究棟南庭で開かれ、上記来賓の方々並びに地元業界代表者等の招待者と六條会員を含めて約3,500名の参加者があり、盛大に行われました。篠山の地で創立されて六甲台に移転し、現在の農学部にも進展してきた50年の歴史を振り返るのに、又出席者の相互交流を深めるのに極めてふさわしい記念祝賀会であったと思います。

さらに、6月6日に篠山の田園交響ホールで開催された学術講演会「21世紀への飛翔―真の豊かな暮らしを求めて―」は、六條会主催、農学部、篠山市商工会及び農協の共催で開催され、500名以上の参加者がありました。時恰も4月1日に新生篠山市が誕生したばかりであり、松中、辻、保田各教授のそれぞれ専門分野の講演に加えて、瀬戸亀男新篠山市長の力強い施政方針演説ともいえる講演が開かれたのは、篠山市民ばかりでなく参加者全員に強い印象を与えました。また、「久しぶりに篠山で学術講演らしい講演を開くことが出来た」という声も主催者にとっては嬉しい限りでありました。

講演会を終了後、新丹波荘で篠山市長を含む地元関係者と六條会関係者との交流会がもたれ、和やかなうちに時の経過も忘れておりました。以上記念事業の諸行事について印象を述べましたが、昨年農学部創立50周年記念事業委員会が発足してから今日までそれぞれ担当理事、委員及び関係各位には格別のご尽力を頂きましたことをご紙面を借りて改めて厚く御礼申し上げます。

平成11年度代議員総会並びに新役員を選出

本年度の六條会代議員総会は、4月中旬に開催されるべきところ、創立50周年記念事業が行われたこともあり、止むを得ず7月3日に農学部大会議室において開催されました。主な議題は、平成10年度事業並びに決算報告、平成11年度事業計画並びに予算案、平成11年度役員選出等でありました。また、今回の50周年記念事業の経過並びに決算報告も同時に予定しておりましたが、順序として記念事業委員会の了承を得ることが時間的に無理となり、正式の報告は本六條会報で行われることと承りました。

次に、本代議員総会の重要議題として新役員を選出があり、六條会規則に則り、役員選出の役員互選による会長の選出等が順次行われ、本会報に掲載されている通りの新役員が決定されました。これから2年間、新役員会によって六條会活動が推進されることになりましたので、会員各位にはこれまで以上のご協力をご指導をお願い申し上げます。また、本年度の活動方針のつととして「六條会支部設置及び運営に関する規定」(平成10年12月発行の六條会報参照)に従って、支部活動の援助と新しい支部の発足に対する積極的な援助を推進することが了承されました。会員各位のご協力により、支部活動の援助と新しい支部の発足に対する積極的な援助を推進することが了承されました。会員各位

の拠点づくりを、出来れば全国的に実施して行きたいと考えております。目下その準備中の会員の皆様には是非ご連絡を待つております。

おわりに

平成11年は新制大学創立50周年を迎える年に当たり、神戸大学の各学部及び同窓会では、それぞれ記念行事が行われてきました。5月15日の農学部記念式典等に続いて、5月29日には文学部の記念式典等が滝川記念学術交流会館で開催され、六條会からは会長が代表で出席しました。さらに、10月9日には法学部、経済学部及び経営学部創設50周年、経済経営研究所創設80周年及び国際協力研究所博士課程完成記念学術講演会が六甲台講堂で開催され、六條会から会長が出席致しました。その際、神戸大学学友会の新野幸次郎会長(元神戸大学学長)が挨拶され、「国立大学の独立行政法人化」の話題が取り上げられました。その功罪は別として、将来同窓会の在り方も再考すべき時に来ているとの指摘がありました。わが六條会でも、神戸大学同窓会の員として将来のあるべき姿について熟慮すべき時であると感じた次第であります。

新緑の溢れんばかりの今日

私は、思いもかけず、この大事業に深く関わることができました。未だ興奮覚めやらずの状態です。誠に僥越ではございますが、ここに私の式辞と挨拶を再録し、望外の幸せを今一度味わってみたいと思います。

(創立50周年記念式典式辞、平成11年5月15日、農学部大教室C01)

新緑の溢れんばかりの今日、遠くから、またご多忙のなか、多数のご来賓、卒業生、教職員のご臨席を頂まして、神戸大学農学部創立50周年記念式典を挙行できますことは、本学部として誠に慶びに堪えないところであり、深く感謝申し上げます。

本学部は、今をさる50年前、昭和24年に、多紀郡篠山町、現在の篠山市において兵庫県立農科大学として開学されました。その後、兵庫農科大学と名称を変更したあと、昭和41年に国立移管され、神戸大学農学部となりました。兵庫県立農科大学の開学前

神戸大学農学部 創立50周年事業をおえて

農学部長
加藤征史郎



平成10年10月の50周年記念講義「21世紀の農学」に始まり、本年5月の記念式典、特別講演会、記念植樹、祝賀園遊会、そして6月の農学部発祥地(篠山)学術講演会と続いた連年の記念事業は、将に大成功のうちにその幕を閉じました。ひとえに六條会会員の皆さまのご努力とご支援の賜物であり、心から感謝いたしております。

後から、その後の学科と講座の増設、兵庫農科大学短期大学部の併設、国立移管に伴う六甲台への学舎移転、そして昭和44年春の兵庫農科大学の廃止にいたるまでの経緯は、開学20年の足跡を記録した「兵庫農科大学史」に詳しく述べられていますが、当時の社会状況に照らしてみますと、それらの一つひとつがいかにか大であり、いかに困難な事業であったかを容易にうかがい知ることが出来ます。また、当時の諸先生方ならびに当時学生であった方々の激しく、熱い情熱が感じ取れるのであります。

その後、息つく間もなく、昭和47年に大学院農学研究科が設置され、昭和56年には本学部と工学部および理学部の三学部を母体とする大学院自然科学研究科が設置され、ようやく博士課程を持つ学部となることになりました。また、平成5年には農学の進展や、社会状況の変化に対応することを目的として本学部の改組を行い、さらに大学院自然科学研究科についても平成6年の第二次改組および今年度にはほぼ完成しました第二次改組を経て今日の姿となったわけであります。

自画自賛のそしりを恐れずに申し上げますが、このように、本学部は創立以来、着実に発展してまいりました。そのすべては、文部省、本学事務局のご理解はもとより、本学部の先輩諸先生方の血の滲むようなご努力と卒業生の皆さまの絶大なご支援の賜物であり、心から感謝いたしております。

さて、わが学部は、これからどう歩んで行くべきかというところであります。今、近い将来の資源の枯渇、食糧危機、環境汚染の問題などが大きく取りざたされています。パブル経済が崩壊して、わが農学部の出番がようやくやって来たという気がいたします。国立大学農学系学部長会議は、「21世紀の農学はいかにあるべきか」について次のようにまとめています。すなわち、「農学は人類全体の生存と幸福を目標に、土地・水圏生物資源の持続的・保続的な生産利用と環境保全技術に係わる自然科学・社会科学の基礎から応用までを含めた研究・教育を行う学問分野」であります。私もまったく同感であります。私の言葉でいいますと、「土・水・空気・太陽をうまく利用し、生きとし生けるものの幸せに貢献するための学問」ということになりました。しかし、これはあまりにも幅の広い学問分野でありまして、この農学部ですべてをカバーすることなどとてもできません。教官一人ひとりがこの基本線に沿って努力し、どのような研究にしようとするか、そしてその集積によって学部の新たな飛躍が生

まれるものと確信しております。21世紀はもう目前に迫っています。私どもは、21世紀の日本を、そして世界をしようとして多くの若者を預かつています。この若者たちとともに、私どもの使命を果たすべく、地道な努力を重ねながら、新たな、そして輝かしい50年、100年の歴史を築き上げようと考えています。皆様方のご指導とご支援を賜りますようお願いし、ご列席の皆様方のご健勝を祈念いたしまして、式辞といたします。有難うございました。

(創立50周年記念発祥地篠山学術講演会挨拶、平成11年6月6日、丹波田園交響ホール)

まず、多紀郡四町の長年の悲願が成就し、本年4月1日をもって篠山市が誕生いたしましたこと、衷心よりお慶び申し上げます。本当にお目出度うございました。また、神戸大学農学部は、先月15日に創立50周年記念式典、祝賀会等を挙行いたしました。その際には篠山市長瀬戸様ならびに市民の皆さまから格別のご配慮、ご好意を賜りました。学部を代表してあらためて御礼申し上げます。篠山市と私どもの学部は、この記念すべき年、すなわち篠山市の市制元年と私どもの創立50周年を同じ年に迎えることができました。「やっばりなあ」と申しますか、不思議な感じがするをえないのでございます。

私どもの農学部は、昭和24年にこの篠山で産声をあげました。そして、昭和41年に国立大学に移管され、昭和44年に神戸市への移転が完了しました。昭和24年に生ま

神戸大学農学部創立50周年記念行事を終えて

六條会記念事業実行委員長 王子 善清

れ、昭和44年に神戸に移ったのですから、丁度私たちの歳に、慈しみ、育んでくださった「ふるさと」、篠山から旅立ったのでございます。それから30年、50歳となりました。先輩諸先生方のご努力、卒業生の方々のご支援によりまして、少しずつではありますが、「ふるさと」の皆さまのご期待に沿うべく着実に発展してまいりました。誠に有り難いことと思つています。

今朝、私は少し早く篠山駅に着きました。何年かぶりに「我等が青春ここにあり」の碑を訪ねました。今日もきれいに清掃されていました。私自身は、残念ながら、篠山の学生生活を経験していません。しかし、卒業生の方々から篠山時代の、これがまさに

先般の神戸大学農学部の創立50周年を祝う式典、祝賀会等の記念行事に際しましては、同窓生並びに農学部教職員諸氏には、絶大なご理解、ご協力を頂き、農学部との密接な連携のもとに六條会の計画したすべての行事を盛会裡に祝うことができました。

誠心誠意がたく厚く御礼申し上げます。盛り沢山な行事に直接労をとって下さった、加藤農学部長はじめ農学部運営委員の先生方、六條会の理事の方々及び実行委員に、あらためて御礼申し上げます。この行事が農学部と六條会の「21世紀への飛翔」の跳躍台となれば、この上ない幸でございます。

考えてみれば2年半前に記念行事の話が六條会役員会の席でどこからともなく持ち上がり、準備委員会での行事内容の立案、実行委員会での実施案を経て、昨年10月の卒業生を講師とした在校生向けの2単位の記念講義を皮切りに、本年5月15日の式典、記念講演会、記念植樹、記念祝賀会、そして6月6日の農

学部発祥の地、篠山での学術講演会を最後にすべての行事を終えることができました。本当にありがとうございます。この間に募金活動、記念品の製作等本当に委員の方にはご協力をいただきました。その時は夢中だったことでもあり、学部は失礼があつたかと思ひますが、記念行事に免じてどうぞご容赦のほどをお願い申し上げます。

青春という思い出、町の人の暖かさ、やさしさなどについて何度となく聞かされてきました。「我等が青春ここにあり」。私は、この碑文の前で何かじんんと胸に迫ってくるものを感じていました。

篠山には「山の芋」や「黒豆」など、たくさんの特産物があります。私は是非お願いしたいのですが、篠山の特産物の一つに神戸大学農学部を加えていただきたいのです。篠山で生まれ育つた特産物の一つが神戸市に出て増殖していると思つていただきたいのです。そして、私どもはといえば、篠山市のお役に立つことがあれば、できる限りの協力をさせていただきます。時は過ぎ、巡り、世は移つても、「ふるさと」はやはり「ふるさと」です。こ

つに神戸大学農学部を加えていただきたいのです。篠山で生まれ育つた特産物の一つが神戸市に出て増殖していると思つていただきたいのです。そして、私どもはといえば、篠山市のお役に立つことがあれば、できる限りの協力をさせていただきます。時は過ぎ、巡り、世は移つても、「ふるさと」はやはり「ふるさと」です。こ

には、個人で1000万円のご寄付をくださった卒業生はじめ10万円以上の協力をいただいた同窓生、農学部教官も多く、心強く思つた次第です。ただ、卒業後20年未満の方からの協力が比較的少なかった点については、今後の同窓会の活動の上で考えねばなりません。若い世代の方を役員、代議員として日ごろの同窓会活動に加わって頂き、世代、年代を超えた親睦を図っていくことが大切だと感じた次第です。卒業後10年未満の同窓生のご理解ご協力を特にお願する次第です。また企業・団体等からの募金は、時節柄、同窓生からの申し出によって受け付けるという、当初の方針のため、予想を大幅に下回る結果となりましたが、これもやむをえなかつたのではと、慰めております。募金の協力者には、記念になるものをと実行委員会で討議の末、記念の絵皿と農学部の学科・講座の50年の歩みを製作し、ご送付いたしました。どうぞ、記念の絵皿をご自宅の飾り棚に飾って戴ければ、実行委員のひとりとして大変幸せです。芸術的センスの乏しい私どもとしては、なかなかの出来栄だと自我自賛しております。ただ刷り込みの写真が古く、見苦しい所がありますが、篠山から六甲への移転当時の学舎だと思つて下されば、ありがたく思います。50年の歩みについては、多くの卒業生から現在の農学部の学科・講座編成と自分の専攻した教室の関係が分かりにくいとの批判に配慮するために、開学以来の講座の変遷が分かるように編集したものです。編集に当たっては農学部の事務の方に大変お世話になりました。同窓生にとっては

それは、卒業生約6000人のうち半数程度の方が1口1万円のご寄付を戴けると見込んで、二応目標額3000万円を設定し、事業を計画いたしました。結果は記念事業の会計報告にありますように、1640万円の収入でそれでも事業費1400万円を賄うに十分でありました。募金を下さった方々には心から御礼申し上げます。中

の「ふるさと」に私どもは特別の思いを抱いているからでございます。最後にになりましたが、篠山市の益々のご発展を心からお祈りいたします。また、本日の学術講演会の開催に当たり、大変なご尽力をいただいた六條会記念事業会に敬意と謝意を表しまして、私の挨拶といたします。有難うございました。

講義の変遷図を辿って下されば、現在の学科名・講座名・教育研究分野名が分かりますので、何かご利用ください。

実行委員の望外の喜びは、記念行事のおかげで、農学部の環境を少し整備できたことが挙げられます。実は、これについては当初の事業予定にはなかつたのですが、私ども学内の同窓生のわがままを了解頂き、農学部玄関ビロテイル前の植え込みを整備し、花壇を設けることができました。花壇の管理については、在学生から園芸愛好学生を募り、管理をお願いすることになっております。これも学部長、事務局長はじめ農学部のすべての先生方のおかげであること

を申し添えます。とき折り折りの美しい花を咲かせてくれるのを楽しみにしているところです。祝賀会場となった研究棟南庭については、除草整備を行った後でもあり、学生の憩いの場所として利用していただくために芝生の種子を播種しました。おかげで、手入れさえ怠らなければ緑豊かな美しい芝生となり、学舎も栄えることと心待ちしています。芝生の管理についても、学部学生や教職員で当番制で管理をしていただければ、お願いしているところです。

記念事業に参加できなかった同窓の方も、ぜひとも花壇や芝生の見学をかねて(写真参照)大学へお立ち寄り下さい。お待ちしております。

今回の記念行事を盛会裡に終えることができましたのは、学部・同窓会が体となって取り組んだ結果であると申し上げ、重ねてご協力を賜った農学部関係者及び同窓の方々に御礼を申しあげつつ、ご報告とさせていただきます。



芝生南庭棟研究

農学部創立50周年記念式典

土田 広信

農学部創立50周年記念講演会

団野 源一



移がありました。学部長式辞、学長挨拶では、丹波篠山の地に昭和24年に兵庫県立農科大学として開学されて以来、現在に至るまでの経緯と神戸大学農学部が21世紀に果たすべき役割の重大さが述べられました。

次いで、来賓の方々からのご祝辞をいただきました。文部大臣祝辞は、岩本 渉氏(文部省高等教育局専門教育課長)によって、県知事祝辞は、宮崎秀紀氏(兵庫県教育長(兵庫農大11回卒))によって、また、神戸市長祝辞は、山下彰啓氏(神戸市助役)によって代読され、最後に、同窓会を代表して六篠会会長 新家龍氏より心のこもった祝辞が述べられました。

その後、司会の内藤親彦教授より祝電が披露され、最後に閉式の辞となりました。創立50周年記念式典がとどこおりなく終えることができましたのも、学内式典実行委員の先生方、同窓会実行委員の方々および農学部事務職員の方々のご協力によるものであります。ご協力頂いた皆様に紙面をもつて心から御礼を申し上げます。

農学部創立50周年記念講義

50周年記念講義は、昨年の10月6、7、9日に神戸大学六甲台講堂にて開講されました。詳細は昨年度の会報にすでに掲載しておりますので、そちらを御覧になつてください。

農学部創立50周年記念式典

農学部創立50周年記念式典終了後、引き続き同じ会場(C101講義室)で記念講演会(十三時四十分から十五時四十分)が行われた。

進化生物学研究所主任研究員 湯浅 浩史 博士による「島大陸マダガスカルから21世紀を考える」の講演、神戸大学長 西塚 泰美 博士による「科学における出会いと伝承——細胞の情報伝達の仕組み」の2題の講演が行

われた。会場は満席で、示唆に富み重みのある感動的な講演であった。なお、講演会の進行と講師の紹介を団野教授が行った。当日会場で配布した講演要旨を次に転記します。

「科学における出会いと伝承——細胞の情報伝達の仕組み」

神戸大学長

医学博士 西塚 泰美氏

「サイエンス」を志す者がその生涯をかけて描いていくストーリーには、数々の自然との出会い、人との出会いが織り成して、そこには幾十年の風雪と共に、喜びと悲しみが秘められているのが常である。ことに生命現象を対象とする「サイエンス」の場合、それが働かない物質学ではなく、また単に科学者の視覚に入るほど簡単ではないので、自然から教わると同様に、人から学ぶことが甚だしく大きな意味を持つている。

「科学における出会いと伝承——細胞の情報伝達の仕組み」

神戸大学長



ヒトの「からだ」を構成する細胞の数は50兆にも達するといわれていて、これら膨大な数の細胞に共通する基本的な仕組みを追い続けた生命科学は、今では細胞間の絶妙な連携プレーの仕組みの解明を目指すようになった。この連携プレーの失調や異常が、がん、記憶障害、心臓病など、日常身近にみる病気の成因となつている。脳の働きと手足の運動、心臓の拍動と血圧調節など、細胞同志の見事な統制のとれた共同作業が営まれるには、数々のホルモンや神経伝達物質などの生理活性物質が、いわば潤滑油として働いているが、こうした細胞間の連携プレーの仕組みの研究は、一世紀以上にもわたって、数え切れない程の多くの科学者達の思いが寄せられ、その伝承の上に成り立ってきた。

今回、農学部50周年記念講演の栄に浴したのを機会に、

こうした研究の一端を通して私自身の「自然との出会い、人との出会い」についてお話ししたい。

◆プロフィール

1957年京都大学医学部卒業、1969年神戸大学医学部教授、1995年神戸大学長。この間、国立基礎生物学研究所教授(併)、神戸大学理学部教授(併)、京都大学ウイルス研究所教授(併)、米国ハーバード大学、スタンフォード大学、ワシントン大学各教授(客)、中国医科大学教授(客)等。文化勲章、学士院賞、文化功労賞、ラスカー賞(米国)、スローン賞(米国)、デールメダル(英国)、シェーリング賞(ドイツ)等受賞。

「島大陸マダガスカルから21世紀を考える」

(財)進化生物学研究所 主任研究員

農学博士 湯浅 浩史氏

毎年一億に近い人口爆発、それに伴う焼畑、燃料用の薪や家畜の過放牧による森林破壊、そして砂漠化、塩漬土壌の増大と、地球レベルでの環境悪化は拍車がかかり、今や地球環境戦争といえるくらいである。

アフリカの東4000kmのインド洋上にマダガスカルという島が浮かぶ。島といっても人によつては第7の大陸と呼ぶくらい広い。古生代のゴンドワナ大陸では西に位置し、数千万年前以上の隔離によつ

て固有生物の宝庫である。ガラパゴスよりはるかにスケールの大きい進化の舞台の異端植物にひかれて足繁く通い、回数は30を超えたが、ここ25年間の変化は激動的である。人口は倍増、森林は加速的に伐採され、急速な自然破壊が進み、紙、燃料、水が不足加えて導入された外来植物が跋扈する。まるで世界の環境問題の縮図のような国となつている。

21世紀は地球人の世紀といわれるが、地球環境戦争の最前線ではなく、いわば後方にあたる日本は、有史後初めての飢えを知らない、四半世紀の生活を満喫している。そしてその飽食が食糧自給率30%以下という危ない経済バランスの上に築かれていることに對する認識は低い。マダガスカル—遠い海のものこの国だが、その問題は示唆に富む。プリズムを通して、21世紀をどう迎え、どう進んでいくのか。考えてみたい。

◆プロフィール

1940年神戸生まれ。昭和38年(1963年)兵庫農科大学卒。昭和43年東京農工大学博士課程修了。農学博士(財)進化生物学研究所主任研究員。東京農大、東京都立科学技術大学などで非常勤講師。日本科学協会理事。専門は細胞遺伝学、民族植物学。海外40カ国で植物調査。著書に「花の履歴書」(講談社学術文庫)、「植物と行事」(朝日選書)、「マダガスカル異端植物紀行」(日経サイエンス社)など多数。

第3回松下幸之助 花の万博記念要領受賞

発祥の地(篠山)学術講演会

山本 博昭

記念植樹

津川 兵衛

農学部創立50周年記念行事の最後を飾る発祥地学術講演会、21世紀への飛翔―真に豊かな暮らしを求めて―が、我が六條会記念事業会主催のもと、6月6日(日)午後1時から5時まで、篠山市の「たんば田園交響ホール」で開催されました。



下さった皆様に厚く御礼申し上げます。講演会は、実行委員長開会の辞、六條会長新家龍氏および神戸大学農学部長加藤征史郎氏の挨拶によって始まり、その後、新家龍氏の司会で4名の先生方が講演されました。以下に、各講演の内容要旨を簡単に紹介致します。

物繊維 摂取量比の重要性を具体的データから訴え、健康に対する食の安全性とバランス、特定保健用食品の必要性等、21世紀の栄養・食生活について語られた。

を待つて語られた。瀬戸市長を始め他の講師の先生方も共に開催地篠山に縁の深い方で、講演の冒頭では各講演者ご自身と篠山とのかわりをユーモラスに紹介され、会場からの爆笑を受けながら終始なごやかな雰囲気のもとに講演は進行しました。質疑応答の時間が取れず残念でしたが、当地での学術講演会は久しぶりのこと、地元の方々にも極めて好評であったと聞いております。

○雑草と人間

松中 昭一氏(前神戸大学農学部教授)

雑草とは何か、その定義と特徴、更にはそこから派生する「雑草的人間」について言及された後、雑草が農業生産や人間・社会生活に及ぼす害とその防除手段を、除草剤の利用状況とその作用機構の原理主として人間に対する安全性と経済性を、多くの具体的事例を示して語られ、除草剤の安全性と経済効果を強調された。先生は、この5月20日に岩波書店より『さらわれもの草の話―雑草と人間』出版されています。是非御読を。

○生産者と消費者の共生

保田 茂氏(神戸大学農学部教授、農大10回生)

阪神淡路大震災時の教訓から人間・地域間連帯の重要性を体験的に述べ、延いては自治体中心の地域連携システム構築の必要性を訴えられた。更に、我が国食料自給率の低下経過と現状及び将来の不安要因を具体的に指摘し、新農業基本法とWTO(世界貿易機構)の政策要旨と問題点を語られ、生産者と消費者の連帯・共生、農村と都市の連携強化に伴う地域農業発展のための、新生篠山市にふさわしい共生型田園都市構想を提案された。

○地域活性化と新生篠山市

瀬戸 亀男氏(篠山市長)

ご自分の生い立ちと農業、生きざまに魂を注いで下さった恩師、町議会議員及び町長として行政の道を歩まれるなかで支えて下さった多くの方々を紹介し、更には、多くの特産物を有する現在の篠山農業と兵庫農科大学との関連等について述べられた。そして、新生篠山市建設に当り、住民と行政のパートナーシップを深め農業の活性化を図っていく施策を強調、「愛と創意による共生、人と自然が調和した田園文化都市」の創生について情熱

5月15日に挙行された農学部学舎内でのメイン記念式典が終了した後であり、関係各位の参加状況等その成り行きが懸念されていましたが、幸い当日の講演会開催中には篠山市民、高校生の皆様、農学部教官、六條会会員の方々のご参加下さって、延べ出席者数およそ500名と極めて成功裡かつ有意義に講演会を終了することができました。

ここに改めて、ご多忙な中を講演下さいました4名の講師の先生方、共催ご協力下さいました神戸大学農学部、篠山市、篠山町農業協同組合、篠山町商工会およびご出席

命の変遷、主な疾病と死亡率の変遷、食生活の変化と栄養摂取量の変遷等に関する多くのデータを提示され、それら相互に関連する食の改善経過と近年における個別栄養素摂取量の問題点について詳細に述べられた。また癌特に結腸癌に対する脂肪/植

最後、この度の篠山における学術講演会の実施に当たっては、地元で在任する実行委員の方々のご尽力に負う所が極めて多く、なかでも、広報・宣伝活動、会場準備設置その他諸々の雑用を二手に引き受け奔走下さいました、岡沢秀晃氏(農大11期生、篠山市総務部長)に六條会から感謝の意をささげたいと存じます。



五月十五日(土)、農学部創立五十周年記念講演会に引き続き記念植樹が行われた。当日は絶好の式典日和で、植樹式場には朝から紅白の幔幕が張り巡らされていた。植樹用シヤベルにも紅白のリボンが結ばれ、植樹式来賓の胸を飾るリボンは、晴れがましく盆の上におさまって、式典が始まるのを待つばかりであった。

農学部管理棟とC101大教室との間に創立五十周年記念式典のために花壇が造られた。これは植樹式場とは通路を隔てて隣り合わせの位置に当たる。花壇中央の小高い盛土の頂上にはフェニックスが四方に大きな葉を軽やかに伸ばし、斜面にはマリゴールド、インパチエンス、シロタエギク、サルビアなどの季節の草花で描か

れた花模様がひとときは匂い立つている。この花壇のデザインは、植物資源学科学士課程平成十年修了で、現在津田造土木(株)勤務の南谷真生氏の手によるものである。定刻に少し遅れて植樹式が始まった。多数の同窓生の見まもるなか、厳粛にして穏やかな雰囲気の下、神戸大学長西塚泰美先生、農学部長加藤征史郎先生、六條会長新家龍先生の手により記念植樹が行われた。記念樹のセンベルセコイアはC101教室の北東の角に当たる附近に植えられた。これは非常に大きくなる樹種であるから、この木の北と西にある二本のメタセコイアとともに、学部創立五十周年に相応しいモニュメントになってくれることを期待している。記念樹のかたわらには、墨跡も鮮かに新家同窓会長の筆による農学部創立五十周年記念の文字を彫り込んだ石碑が立っている。



神戸大学農学部創立50周年記念

交流と親睦の祝賀会を終えて

中村 直彦 (神一回)



よいよオープニングである。学歌の歌詞に「ともに歌う…、ともに語る…、ともに生きる…」とある。

われわれ同窓生は、これから非常に厳しい時代に立ち向かうことが予想されるが、この社会の持続的発展・生きるものの幸せのために貢献するとともに自分自身が素晴らしい人生を歩むにあたり、この歌詞にあるが如く、大学を核として同窓生が繋がりをもち一丸となつて力をあわせることができたと思つてゐる。

グリークラブの演奏のあとは、主催者の挨拶である。農学部長の加藤征史郎先生からは「おいしい料理を前に、挨拶は短い方がよいと言います。これで挨拶を終わります。」と言つた内容。参加者全員は度肝を抜かれた思いで爆笑し、なごやかな雰囲気になつていった。(これも、3時間前の記念式典には農学部長から厳粛なる式辞が述べられているのだから的を得た！？挨拶であつた。)

つづいて、農学部の前足を祝し鏡開きを行った。ご参加いただいた先生方は、神戸大学学長の西塚泰美先生、農学部長の加藤征史郎先生、文部省高等教育局専門教育課長の岩本涉先生、六條会長の新家龍先生、50周年事業実行委員長の王子善清先生の5名で、ハッピー姿に身をまとい、舞台上に置かれた5斗樽の鏡が勢いよく開かれた。

引き続き、乾杯の発声を兵庫農大6回生、兵庫県会議員の北浦義久様が卒業生を代表して行い、祝宴に入つた。農学部校舎の南にある新緑の鮮やかな木々に囲まれた会場では、中央にメインの料理を配し、会場周りにおでん、寿司、焼きそばやドリンクなどが並べられ、約350人が所狭しとばかりに歓談を続けた。和やかな雰囲気になつた。来賓の祝辞をいいたところで、来賓の祝辞としては、神戸大学学友会会長で、元神戸大学学長の新野幸次郎先生と神大クラブ運営委員長と神大クラブ三様にお願ひした。神戸大学学友会は、大

学的发展と同窓会会員の交流の促進のために全学部が力を合わせて結束した組織で、実際の事業活動は神大クラブが行うことになつてゐる。

新野会長からは「篠山を故郷に持つ農学部は羨ましい。人類の多くの課題を解決するためには農学部が活躍しなければならぬ時代である。」福田委員長からは「神大クラブが創設して15年経つ。多くの同窓生の交流の場であるので大いに活用してほしい。」と。

「昔の思い出」に夢中になつてゐるところで、つづいて「思い出の歌」をグリークラブが演奏。一曲目は「兵庫農科大学学歌」。

「丹波道や多紀高原に新しき理想かざして 生まれたり兵庫農大」と始まるこの歌の作詞者は、元神戸大学医学部長、山鳥崇先生。「学生時代の当時、学歌の募集があつた」と山鳥先生から応募のいきさつや懐かしい思い出が披露された。

二曲目は、神戸大学の前身である神戸高商時代から学歌として入学式、卒業式や各種の行事のごとに歌い続けられてきた「商神」である。「やっぱり商神はいいなあ」といつて口ずさむ者は多い。黒のスラックスに白のブレザーを身に纏つたグリークラブの面々から歌い出される曲は、あたり一面を厳粛な雰囲気にお

込み、「ゾーン」と身の引き締まる思いがする。つづくテールスピーチでは、神戸大学名誉教授で元農学部長の中村直彦先生、同じく名誉教授で前六條会長の西川欣一先生からの、古き良き大学、篠山から六甲への引越、大学紛争時代や同窓会の変遷といった話題は、同窓生の心を若き日々の過去へとシフトさせていった。また、一昨年発足した畜産学科の同窓会である「六條Z会」会長の杉本金五様(兵Z5回生)、

六條会関東支部会長の和泉孔庸様(兵C8回生)から支部活動の近況報告があつた。祝賀会もクライマックスに達したところで再びグリークラブが登場し、愛唱歌「ウボイ」「ソングオブソルジャーズ」が軽快に歌われた。

午後6時。暮れなずむ頃。懐かし、そして楽しく過ぎてきた祝賀会だが、いよいよ時間が押し迫つてきた。2002年には神戸大学が創立して100周年を

迎える。3年後に迎えるこの記念すべき日には、ここに集まつた皆が元氣に再会することを誓い、グリークラブの「遙かなる友に」の歌を後にして散会した。

「静かな夜更けにいつもいつも思い出すのはお前のごとく…」

興奮が渦巻く日がな一日の記念日であつたが、その祝賀会の流れを描写的に記述した。午後6時、散会したと記したが、実際には6時20分、いや30分、と経つても別れを惜しんでパーティ会場を後にする者は少ない。その後、恐らく多くは心の友を求めて二次会、三次会へと足を運んで行つたに違いない。企画し、そして進行したものとつて、目的に少しでも近づけられたのではないかと思つてゐる。

この祝賀会は、限られた時間の範囲において、参加者が退屈せず、楽しく、そして50周年という節目を体感し、人と人との絆を深めるといふ有意義なセレモニーに仕上げなければならぬ。それだけに進行は難しい。「司会は君がやってくれ！」と言われ、あまりの大役のため丁寧に断りしたが、断り切れずお引き受けした。当日は何かと不行き届きの点が多々あつたと思われがお許し願ひたい。



50周年会計報告

収入の部	決算額	備 考
会員個人による募金	13,707,025	正会員 714名 現教官 96名 11件 216名(祝儀¥270,000を含む)
企業法人・団体等による募金	948,940	
祝賀会参加費等	1,783,860	
六篠会H10年度一般事業費から借入	1,200,000	
その他	1,651	郵便預金利子
合 計	17,641,0476	
支出の部	決算額	備 考(細目)
記念特別講義の後援	1,303,586	講師 謝礼および旅費(15名) 会場設営 学生アルバイト(9名) 講師 懇親会 講師 昼食 記念写真 6000部 飾り皿(850個) 21世紀への農学探究(520部)
六篠会報50周年特別記念号発刊 飾り皿等の製作・募金者への発送	1,972,647 1,708,065	
記念植樹 記念式典・講演会・祝賀園遊会の開催等	300,315 5,130,103	会場設営 飲食費 案内状発送 記念品等 招待者旅費(3名) 神大グリーンクラブ謝礼 壺(講演者2名 謝礼) 農学部事務職員受付 謝礼 記念写真 学生アルバイト(6名) 記録アルバム 篠山城大書院復元事業寄付 懇親会(新たんば荘) 講師 謝礼 たんば田園交響ホール使用料 諸雑費 募金趣意書の発送等 会議費(9回) 農学部委任経理国庫金 神大文学部50周年式典 祝儀 関東支部への協力依頼出張 諸雑費
篠山学術講演会	1,452,250	
事務費・行動費・会議費・諸雑費	2,169,991	
予備費	0	
事業費 小計	14,036,957	
六篠会H11年度一般会計へ返済	1,200,130	借入金の返却
六篠会 学術振興基金へ繰入	2,404,389	
合 計	17,641,476	

支部等の便り

KOBE六篠会 菅原 通直(神四回)

KOBE六篠会は、六篠会の神戸市支部であり、兵庫農科大学、兵庫県立農学短期大学及び神戸大学農学部を卒業し、神戸市役所に勤務する者で構成されています。昭和59年に結成され、毎年1回総会・懇親会を開催しています。総会・懇親会は、農学部長、六篠会長にご出席をいただくとともに、定年退官された大学の先生方をお招きし、昔話に

花を咲かせています。記念写真のとおり一目瞭然ですが、老若男女が一同に会しています。会の活動は、年一回の総会・懇親会の開催と名簿の発行のみですが、いろいろな分野に所属しているため、年一回の総会・懇親会は、仕事の話や大学時代の昔話などであつという間に時間が経ちます。会員は、区分すると次のようになります。

勤務先の区分	仕事の内容	人数
学 校	教 職	5
保健福祉局・保健所等	食品衛生・環境衛生・感染症予防等	19
環境保健研究所・食品衛生検査所	食品・環境等検査	6
生活情報センター	消費生活相談、情報収集等	1
財団法人兵庫県予防医学協会	食品衛生・環境衛生に関する指導	1
環境局	環境保全・廃棄物関係の指導等	14
大阪湾広域臨海環境整備センター	廃棄物の自治体共同埋立て処分	1
港湾整備局空港整備本部	神戸空港に関する業務	1
産業振興局・農業委員会	農水産業務	17
神戸市園芸振興基金協会	農業公園・フルーツパークの業務	5
神戸市緑農海浜公社	農政関係の公社業務・六甲山牧場	2
建設局・建設事務所	土木・道路・公園・下水道等	9
都市計画局	都市計画に関する業務	2
こうべ市民福祉振興協会等	しあわせの村の公園緑地に関する業務等	2
水道局	水質試験所	1
監査事務局	監査業務	1
OB会員	正会員で退職された方	28
名誉会員	会発足以後、学部長で退官された先生	3
合計人数(正会員87名、OB会員28名、名誉会員3名)		118

農学部を卒業したとはいえず、配属先は実に多岐にわたります。大きく分けると「学校」ということになります。

以上の方が会の世話をしていますが、女性会員の増加に伴い、女性幹事も入り運営しています。今年も採用が大きな変革の中、2名の新規採用者があり、我々の仲間となりました。KOBE六篠会はこのように

役職名	氏 名	卒年・回生	所属(勤務先)
会 長	坂井 永利	S39年・兵A12回	環境局自動車管理事務所
副会長	谷 俊洋	S39年・兵A12回	建設局垂水建設事務所
副会長	西尾 司	S43年・兵Z16回	環境局環境保全部指導課
副会長	中村 直彦	S45年・神Z1回	産業振興局農水産課
幹 事	木股 昌行	S45年・神Z1回	垂水区保健部衛生課
〃	岡 淳治	S45年・神T1回	都市計画局区画整理部
〃	菅原 通直	S48年・神C4回	西部都市整備課
〃	橋本 宏之	S51年・神Z7回	須磨区保健部衛生課
〃	渋谷 一郎	S52年・神C8回	保健福祉局保健所衛生監視課
〃	高谷 信之	S52年・神A8回	生活情報センター
〃	森川 功一	S55年・神C11回	神戸市園芸振興基金協会
〃	鈴木 壽也	S59年・神P15回	フルーツパーク部
〃	松宮 道生	S60年・神A16回	環境局環境保全部環境情報課
〃	安藤 伸子	H元年・神C20回	産業振興局中央卸売市場
〃	岡野 光世	H3年・神A22回	東部市場業務課
〃	畑沢 則雄	S41年・兵A16回	建設局西建設事務所
〃	斎藤 允己	S42年・兵A15回	環境局環境保全部環境情報課
〃	谷口 正夫	S43年・兵Z16回	産業振興局農政計画課
〃			監査事務局第3課
〃			福田中学校
〃			産業振興局農水産課



KOBE六篠会 第13回総会 1999.11.2 於 神戸産業振興センター

県六篠会近況報告 武 正興(神三回)

「県六篠会」は、兵庫県に勤務する(又は、勤務した)六篠会会員により、昭和五十六年に結成されました。現在、会員二〇七名(内現職会員七三名)を数えます。会員の所属は、総務部九、生活文化部三、健康福祉部三、商工部、労働部、農林水産部三五(内試験研究三二)、まちづくり部四、教育委員会三、出納事務局一、県警三と多岐に亘ります。

兵庫農科大学 回生から神戸大学三〇回生まで四七年間、ほぼ平均的に毎年四人から五人が採用されています。退職者と新規採用者が均衡しており、現職会員一七〇名を維持しております。

会の活動は、年一回の総会兼懇親会ですが、会員同士は仕事の中で同窓生としてのよき緊張感の下、困難な仕事も円滑に進められているのではないのでしょうか。



十年度役員

阪神・淡路大震災からの復興、二〇〇〇年三月二十八日から九月十七日の八四日間淡路島で開催される花と緑の国際博覧会...

事務局

県農林水産部食品流通課 担当 武 正興(神三回)

電話:078-362-3442 FAX:078-362-4276

関東支部の近況

関東支部部長 和泉 孔庸(兵八回)

関東支部は昨年の七月に関東地区の二都六県に在住、在勤している会員を中心に...

去る七月十日には本部から新会長並びに王子副会長をお迎えして、第二回の支部総会を開催しました。

この総会では、支部役員の一部改選及び会計報告の承認に続いて新会長及び王子副会長から、本年五月に...

*幹事

- 本田 勉(兵十二回) 多田 泊二(兵十三回) 加納 健三(兵十六回)...

*監事 松浦 祥二(兵十回) 辻川 立史(神十五回) 西岡 泰介(神十八回)

六篠会たあなんぎや?

〔六篠会とは何ですか?〕の熊本弁 豊増 千鶴夫(兵五回)

員が登録されており、神戸大学を卒業された会員が八割以上を占めています。

残念ながら、九州まして熊本県において兵庫県立農科大学及び神戸大学農学部...

延喜会

久下 平(兵二回)

延喜会の発足は大へん古く、最初は兵庫農科大学醸造学教室卒業生で酒造会社に勤務する者と、学校との情報交換、親睦を計る集まりとして昭和三十年代に故麦林先生、故西羅先生の頭文字をとって麦西会の名称で発足しました。

勤務する灘の酒造会社が大被害を受け、その復興が非常に遅れたため延喜会の活動が出来ませんでした。

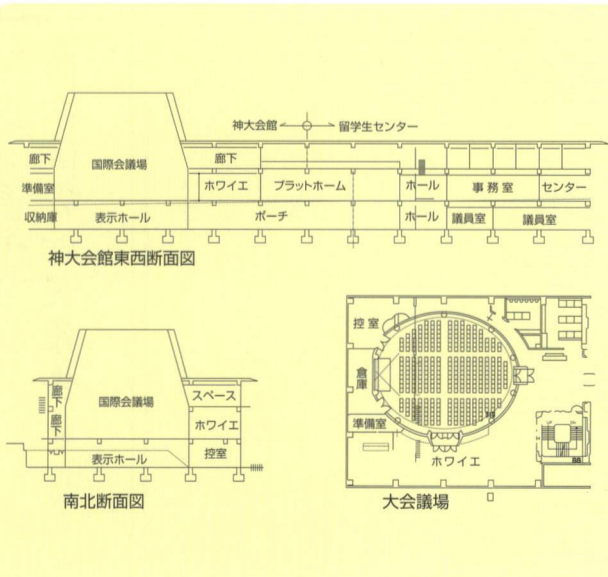
学友会だより 西川 欣(兵二回)

学友会組織

神戸大学各学部同窓会、つまり文学部同窓会、紫陽会(教育学部・発達科学部)...

学友会は神戸大学の公的行事に対して協議する会で、毎年六月と十二月に、学長、副学長をお招きして定期幹事会を開催しています。

- ◆会長 新野幸次郎 凌霜会理事長 ◆副会長 内藤 穆 神緑会顧問 ◆監査 難波 昭 紫陽会会長 ◆幹事 西川 欣一 六篠会前会長 渡邊 紘 KTC理事 ◆幹事 島 一雄 KTC常務理事 福田 晋二 凌霜会理事 松本 義治 凌霜会理事 今井 幸夫 神緑会顧問 鈴木正二郎 紫陽会副会長 押田 栄一 理同窓会副会長 沖野 政弘 文同窓会副会長 三宅 陽子 文同窓会副会長 堀 功郎 凌霜会常任理事 山本 勝也 凌霜会評議員 吉田 昭彦 凌霜会評議員 新家 龍 六篠会副会長 高木 智司 理同窓会副会長 船橋 健雄 翔鶴会会長 池田 智美 翔鶴会幹事 ◆事務局 金原 正展 凌霜会評議員





神大クラブ(KUC)創設15周年記念パーティー

学長を囲む 六篠会員ら

神大クラブ(KUC)だより

中村 直彦(神回)

なお、十五年前から活動しているKUC(神大クラブ)は学友会の下部組織として従来通り、神戸大学全卒業生の交流の場、親睦の場として各学部同窓会から三名が選出された運営委員会によって、毎年新しい事業を企画し、各種行事が開催されています。

神大クラブの建設

平成十一年六月開催の学友会幹事会において、神大クラブの概要が報告されました。建設場所は農学部の南側にある「眺望館」「瀧川記念学術交流会館」一文

理農・学生食堂」の東側に、三つの新施設、神大クラブ・留学生センター・山口誓子記念館が三位一体となったKRYセンターの一つとして、神大クラブが建設されること、構造は図の如くで、大小の会議室の外、交流ホールや三〇〇人席をもつドーム型の会議場などができます。完成予定は平成十二年七月で、同年秋季に竣工が予定されているとのことです。神大クラブ完成後の学友会並びに各学部同窓会の活用が期待されます。

神大クラブ(KUC)とは

神大クラブは、神戸大学の全学部の卒業生が気軽に利用できるクラブとして、昭和58年(1983)に誕生した。同窓生が学部、世代、専門を越えて、相互交流と親睦を図る場として大いに利用されている。若者同志が集まったり、活躍中の卒業生が交流したり、同窓生の憩いの場であったり、職場の親睦の場となったりと活用範囲は広い。

運営については、各学部の同窓会から3名程度の役員を選出した運営委員会で、事業を企画し活動を行っている。なお、農学部からの選出役員は、能宗康夫(兵C2)、石賀暢(神C1)、中村直彦(神Z1)、南森隆司(神C6)

定期的なパーティーや講演会を開催するほか、次の施設が割引利用できる。
・レストランの割引(ザ・ハーバー スカイ、たか浜、高くら)
・海外旅行、国内旅行の割引

ゴルフ場練習料金の割引
気軽にご相談ください。
TEL:078(794)3041
FAX:078(360)6052

入会及びお問い合わせは
神大クラブ事務局(ザ・ハーバー スカイ内)
TEL:078(360)8451
FAX:078(360)6052

神大クラブ同好会の発足を準備
同窓生の交流を深めるため、気軽に楽しめる同好会を作る準備を進めている。予定している活動は①囲碁②将棋③川柳④旅行⑤写真⑥釣り⑦園芸⑧読書会⑨歴史ウォークなど。そのうち、農学部は園芸と釣りの事務を担当することになっているので、活動についてのアイデア、情報の提供をお願いしたい。

神大クラブ海外旅行を企画
神大クラブ創設15周年を記念して、昨年天津・北京旅行を行ったが、大変好評であったため本年も引き続き、10月に敬虔(けいけん)な仏教国、ミャンマーの仏教遺跡を探索した。



神大クラブ記念講演

2月27日(土)に「世紀末の世界と日本」と題して、神戸大学法学部教授五百旗頭真(まこと)先生をお招きした「講演会&パーティー」を開催した。

当日は、福田晋三神大クラブ委員長による開会宣言のあと、新野幸次郎学友会会長の式辞、さらに西塚泰美神戸大学学長、笹山幸俊神戸市長から来賓祝辞をいただき、講演会へ、続いてパーティーへと移った。約500人の同窓生は知識を充電し、そのあと懇親を深めた。

講演内容は、激動する国際環境の中の日本の立場は如何にあるべきかということとを歩んできた日本の戦後の政策に照らし合わせながら、興味深く解説された。

掘り下げて知りたい方は、「占領期 首相たちの新日本」(1998年、五百旗頭真著、読売新聞社出版、吉野作造賞受賞)を読まれることを推薦したい。

平成10年度同窓会報告

庶務報告

平成11年度の代議員総会の決定に基づき新役員体制での活動をスタートさせました。平成10年度は農学部創立50周年に関する取り組みが主たる活動内容でした。このことについては他の項目で詳しく触れられておりますのでここでは割愛致します。役員とのメンバーについては昨年度とほぼ同じメンバーで運営してゆくことが承認されました(ただし、副会長にKOBEB六篠会から坂井永利氏が就任され、監事に税理士の外山真理氏に就任していただきました。また、平成9年度の総会で本会の運営に関する諸規定が成立したお陰で運営指針が確立し、10年度のみならず今後の運営が大変スムーズに成りましました。平成10年度の一般事業として会員増強、会報の発行(50周年事業と関連)、農学部・農場活動援助、六篠会支部活動の援助、学友会・KUC活動援助、学生の六甲祭援助、マラソン援助、学生図書購入援助、退官教授記念品贈呈、卒業証書簡贈呈、卒業祝賀会援助などを行いました。また、学術振興事業としては例年どうり会員の海外学術活動の援助(7件、学生会員を含む)と農学部の各学科主催の学術講演会(15件)への援助を行いました。

平成11年度六篠会役員名簿

- 会長 新家 龍 (兵5)
- 副会長 北浦 義久 (兵6)
- 和久 克明 (兵10)
- 坂井 永利 (兵12)
- 杉本 金五 (兵5)
- 王子 善清 (兵12)
- 幹事 渉外 王子 善清 (兵12)
- 庶務 南森 隆司 (神6)
- 会計 森 直樹 (神16)
- 会報 万年 英之 (神20)
- 会報 吉倉 淳一郎 (神16)
- 名簿 金地 通生 (神14)
- 名簿 武地 正興 (神14)
- 名簿 菅原 通直 (神4)
- KUC 能宗 康夫 (兵2)
- KUC 石賀 暢一 (神1)
- 学友会 西川 欣一 (兵1)
- 監事 外山 真理 (神8)
- 土田 広信 (兵9)
- 西川 順三 (兵1)
- 東 順一 (兵1)
- 田中 平義 (兵1)

「訃報」

以下の方がご逝去なされました。謹んで御冥福をお祈り申し上げます。
松林 元一 氏 (旧教官)
小林 征夫 氏 (兵A9回)
久寿米木 朝雄氏 (旧教官)
一井 隆夫 氏 (旧教官)

退官並びに着任教官

平成11年3月末日に退官された教官は、次の2名の方々です。
豊澤 敬一郎 (動物機能調節学) 氏と南篠 巖 (付属農場) 氏
平成11年4月以降に新着された教官は次の方々です。
岩永史郎氏 (生物機能利用化学科)
乾 秀之氏 (生物環境制御学科)
北川 浩氏 (動物機能調節学)
大澤 朗氏 (動物機能調節学)
佐々木 満氏 (生物機能分子化学)
竹中 慎治氏 (生物機能利用化学)
鈴木 武志氏 (生物環境学)
大山 憲二氏 (付属農場)

第3回のSAFEA21シンポジウム

シンポジウムが去る11月1日神戸大学瀧川記念会館にて開催され、モンゴル、韓国、オーストラリアと神戸大学からの講演者に加え、学生、教官、社会人の約75名の参加のもとに成功の内に終了しました。国際シンポジウムには珍しく、日本語を介しての質疑応答が行なわれ、参加者にとっては親しみやすい実質的な国際会議となりました。

平成10年度慶弔記録

本シンポジウム開催に当たり、六篠会のご援助を頂いた事を明記しここに御礼とご報告を致します。
SAFEA21 シンポジウム 組織委員長 辻 莊

六篠会への連絡

会員の皆様からの本会への御連絡を主としてFAXで受付けております。また、コンピューター導入に伴い、新たにe-mailでの受付も行っております。住所や連絡先の変更、また本会に対する御要望、御意見など御待ちしております。なお、御連絡の際には、所属学科と卒業年次を合わせてお伝え頂くようお願い申し上げます。

FAX:078-881-2752
E-mail:rikusou@ans.kobe-u.ac.jp

神戸大学百年史編集委員会から写真等ご提供のお願い

お持ちになられている在学中の古いお写真等がございましたら、ぜひともご提供いただきたくお願い申し上げます。写真はスナップ写真・アルバム等何でも結構です。
ご提供いただける写真等がございましたら、左記の神戸大学百年史編集委員会までご連絡ください。会員のみなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

神戸大学百年史編集委員会
住所 〒657-8501
神戸市灘区六甲台町1-1
電話 078-803-5035
(ダイヤルイン)

会員のみなさまにはますますご清栄のこととおよろこび申し上げます。
神戸大学は、平成14(2002)年に、前身諸校の中でもっとも早く高等教育機関として成立した神戸高等商業学校の設立から百年を迎えます。神戸大学のこの百年の歩みを回顧するために、『神戸大学百年史』を刊行すべく、神戸大学百年史編集委員会が開設され、準備が進められております。
平成13(2001)年度の年度末には、その一環として、『神戸大学百年史 写真集』が刊行される予定です。そこで、会員のみなさまが

六篠会 平成11年度一般事業予算

収入の部(円)

項目	10年度	11年度	増減(一:減)	備考
入会金	5,000,000	5,000,000	0	
前年度繰越金	1,226,378	3,097,868	1,871,490	
50周年記念事業からの繰入	0	1,200,000	1,200,000	
雑収入	4,000	4,000	0	脚注1)
合計	6,230,378	9,301,868	3,071,490	

支出の部(円)

項目	10年度	11年度	増減(一:減)	備考
農学部・農場活動援助費	550,000	550,000	0	脚注2)
一般事業				
会報発行事業	0	2,000,000	2,000,000	脚注3)
50周年事業への繰出	1,200,000	0	-1,200,000	
各種活動援助	250,000	500,000	250,000	脚注4)
学生図書	250,000	250,000	0	
卒業記念祝賀会	300,000	300,000	0	
一般事務費	1,700,000	1,500,000	-200,000	脚注5)
会議費	300,000	300,000	0	脚注6)
旅費	100,000	100,000	0	
慶弔費	300,000	300,000	0	
交際費	130,000	130,000	0	脚注7)
褒賞費	100,000	100,000	0	
役員手当	540,000	540,000	0	脚注8)
神大友会費	110,000	110,000	0	脚注9)
予備費	400,378	2,621,868	2,221,490	
合計	6,230,378	9,301,868	3,071,490	

脚注1) 預金利子、名簿、絵葉書売上など
脚注2) 環境美化、収穫祭など
脚注3) 10年度は50周年事業で行った
脚注4) 支部設立、支部活動、六甲祭、国際シンポジウムなどの援助
脚注5) 郵送料、電話代、アルバイト代、など
脚注6) 代議員総会、役員会、幹事会など
脚注7) 六篠会、学友会、KUC 活動費
脚注8) 役員活動費
脚注9) 神大100周年記念事業積立金、学友会年会費

六篠会 平成10年度一般会計報告書

収入の部	7,486,518 円
支出の部	4,388,650 円
差引残高	3,097,868 円

収入の部(円)

項目	予算額	決算額	増減(一:減)	備考
入会金	5,000,000	6,240,140	1,240,140	脚注1)
雑収入	4,000	20,000	16,000	脚注2)
前年度繰越金	1,226,378	1,226,378	0	
合計	6,230,378	7,486,518	1,256,140	

支出の部(円)

項目	予算額	決算額	増減(一:減)	備考
農学部・農場活動援助費	550,000	550,000	0	脚注3)
一般事業費	2,000,000	1,811,200	-188,800	脚注4)
一般事務費	1,700,000	1,033,241	-666,759	脚注5)
会議費	300,000	139,300	-160,700	
旅費	100,000	29,980	-70,020	
慶弔費	300,000	86,614	-213,386	
交際費	130,000	88,000	-42,000	脚注6)
褒賞費	100,000	0	-100,000	
役員手当	540,000	540,000	0	脚注7)
神大友会経費	110,000	110,315	315	
予備費	400,378	0	-400,378	
支出合計	6,230,378	4,388,650	-1,841,728	
次年度繰越金	0	3,097,868	3,097,868	
合計	6,230,378	7,486,518	1,256,140	

脚注1) 3万円×208人
脚注2) 名簿売上など
脚注3) 環境美化、収穫祭など
脚注4) 50周年記念事業援助など
脚注5) 郵送料、アルバイト代など
脚注6) KUC活動など
脚注7) 役員活動費

六篠会 平成11年度学術振興基金事業予算

収入の部(円)

項目	10年度	11年度	増減(一:減)	備考
前年度繰越金	32,840,756	32,230,882	-609,874	
50周年事業からの繰入	0	2,500,000	2,500,000	
雑収入	95,000	90,000	-5,000	脚注1)
合計	32,935,756	34,820,882	1,885,126	

支出の部(円)

項目	10年度	11年度	増減(一:減)	備考
学術振興事業				
海外学術活動援助費	400,000	400,000	0	脚注2)
学術活動援助	400,000	400,000	0	脚注3)
予備費	500,000	500,000	0	
保留金	31,635,756	33,520,882	1,885,126	
合計	32,935,756	34,820,882	1,885,126	

脚注1) 預金利子など
脚注2) 国際学会発表援助
脚注3) 学術講演会援助(2万円×20件)

六篠会 平成10年度学術振興基金決算報告書

収入の部	32,930,882 円
支出の部	700,000 円
差引残高	32,230,882 円

収入の部(円)

項目	予算額	決算額	増減(一:減)	備考
前年度繰越金	32,840,756	32,840,756	0	
雑収入	95,000	90,126	-4,874	脚注1)
合計	32,935,756	32,930,882	-4,874	

支出の部(円)

項目	予算額	決算額	増減(一:減)	備考
海外学術活動援助費	400,000	400,000	0	脚注2)
学術活動援助	400,000	300,000	-100,000	脚注3)
予備費	500,000	0	-500,000	
支出計	1,300,000	700,000	-600,000	
保留金	31,635,756	32,230,882	595,126	
合計	32,935,756	32,930,882	-4,874	

脚注1) 預金利子など
脚注2) 国際学会参加援助など
脚注3) 学術講演会援助(2万円×20件)

住所等変更のあった人

--

--

--

--

--

